

農試第10161号
令和5年10月19日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察特殊報第2号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病害虫防除室
TEL	0776-54-9315(直通) 0776-54-5100(代表)
FAX	0776-54-6403
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp
URL	https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html



令和5年農作物病害虫発生予察特殊報第2号

トマトキバガの発生初確認

1 病害虫名 トマトキバガ

Tuta absoluta(Meyrick)

2 発生経過

- (1) 令和5年10月12日、名古屋植物防疫所伏木富山支所小松空港出張所が福井県内2カ所に設置しているトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップに、疑義成虫が誘殺され、同所で同定したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが判明した。
- (2) 県内では本虫による農作物での発生及び被害は確認されていないが、福井県農業試験場病害虫防除室が県内トマト生産ほ場近く4カ所に設置しているフェロモントラップにおいても12日以降、本種成虫の誘殺が確認されている。(写真1)

3 国内の発生状況

本種は、国内では令和3年10月に熊本県、同年12月に宮崎県のトマト栽培ほ場で確認された。それ以降、フェロモントラップ調査により、これまでに本県を含め合計32道府県で特殊報が発令されている。

4 形態

- (1) 成虫は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である。(写真2)
- (2) 幼虫は、終齢で約8mm、体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。(写真3)

5 生態および被害

- (1) 1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
- (2) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。主な寄主植物はトマト、ナス、バレイショなどナス科植物で、インゲンマメも寄主植物として確認されている。雌は一生のうちに平均で約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。
- (3) トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる(写真4)。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する(写真5)。また、バレイショでは地上部を加害し、塊茎は直接加害しないとされてきたものの、近年、海外においてまれに塊茎への加害が報告されている。

6 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農林総合事務所農業経営支援部、嶺南振興局農業経営支援部・課、農業試験場病虫害防除室に連絡する。
- (3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4) 令和5年10月16日現在のトマトキバガに対する登録農薬は表のとおり。なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。
(農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

7 参考写真



写真1 誘殺されたトマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ終齢幼虫



写真4 トマト葉の食痕(飼育虫)



写真5 トマト果実の食痕(飼育虫)

注) 写真1は福井県農業試験場原図、写真2～5は農林水産省植物防疫所原図

表 トマトキバガに生育期散布の登録のある農薬（令和5年10月16日現在）

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	散布液量 (L/10a)	適用作物	
						トマト	ミニトマト
5	ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで	2回以内	100 ~ 300	○	○
	ラディアントSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで	2回以内		○	○
	ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内		○	○
6	アグリメック	500~1,000倍	収穫前日まで	3回以内		○	×
	アフファーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内		○	○
11A	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—		○	○
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内		○	○
22A	トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内		○	×
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内		○	○
28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内		○	○
	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内		○	○
	ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内		○	○
30	グレースシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内		○	○
UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内		○	○